

地域における情報化の推進に関する検討会
住民サービスWGの検討状況の報告

平成16年12月20日
住民サービスWG

住民サービスWGの概要

目的

「地域における情報化の推進に関する検討会」 中間報告（抜粋）

4 最終報告に向けた取組

今後、本章の第1節から第3節まで述べた地域情報化の方向性についてはワーキンググループを設置するなどして、さらに詳細を検討するとともに、あわせて、今後、以下のような点について別途ワーキンググループを設置して検討を進め、中間報告における成果とあわせ、地域情報化についての全体ビジョンを最終報告として取りまとめることとする。

地域情報化を担う各主体（地域住民、NPO、地域企業、地方公共団体等）の連携・役割分担のあり方
住民の視点から見た地域情報化のあり方
住民の生活圏（行動圏）等を視野に入れた広域的な地域情報化のあり方

WG構成員

伊藤 淳子	(株)エイガアル 代表取締役社長
宇山 正幸	三鷹市 企画部情報推進室長
國領 二郎	慶應義塾大学環境情報学部 教授（主査）
小林 隆	東海大学政治経済学部政治学科 講師
塩崎 泰雄	桐生地域情報ネットワーク理事長
鈴木 聡明	南房総IT推進協議会 副理事長
高木 治夫	日本サステナブル・コミュニティ・センター代表理事
高橋 寿美夫	株式会社ベンシステム 代表取締役
寺林 一朗	富山県 経営企画部情報政策課長
野長瀬 裕二	埼玉大学地域共同研究センター 助教授
平井 愛山	千葉県立東金病院 院長
細内 信孝	コミュニティビジネス総合研究所所長、コミュニティ・ビジネス・ネットワーク理事長
丸田 一	国際大学グローバル・コミュニケーション・センター教授（主査代理） (五十音順)

検討スケジュール

平成16年 8月 6日	第1回会合	WGの執り進め方について
9月 28日	第2回会合	地域情報化の課題と方向性について
10月 26日	第3回会合	取りまとめ骨子の検討
11月 19日	第4回会合	中間取りまとめの検討



最終報告に向け2～3回会合を開催

検討を行った背景

□ わが国の社会情勢の変化に対応して、地域情報化のあり方を再定義する必要

ユビキタス基盤の整備、新たな地域活動の担い手の出現、地方分権の進展などに伴い、地域のポテンシャルは増大

他方で、少子高齢化、住民ニーズの多様化、景気の低迷などにより、地域が情報化に利用できる資源が減少

地域主導で情報化を牽引できる体制を構築するために必要なことは何か

住民、NPO、地域企業等のポテンシャルを最大限活用

地方公共団体のみでは人的・財的資源に限界がないか

地域情報化の成果が住民ニーズにマッチしているか

新たな地域情報化のコンセプト

情報化が行政区域に限定されていないか

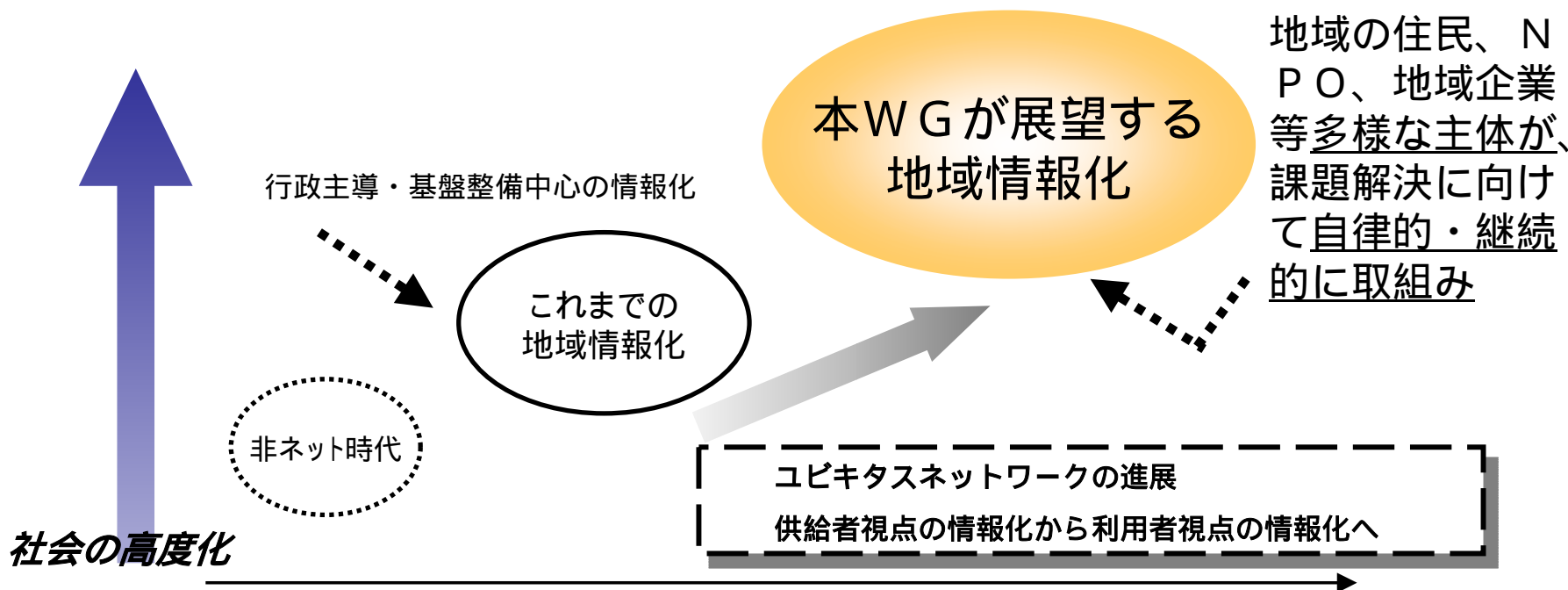
住民視点による評価手法の検討

住民の生活圏を意識した広域化の推進

住民サービスWGが描く地域情報化の姿

□ 「いつでも、どこでも、何でも、誰もが」ネットワークにアクセスできる環境が整備されつつある現在、地域自らによる課題解決に向けた取組みが勃興

➡ 各地域の特性に応じた、コストパフォーマンスが高い課題解決が可能に



地域から湧き上がる情報化の取組み事例

事例	主な参加主体	取組みの概要
建築市場 (鹿児島県)	企業	建築現場の作業効率の向上と住宅品質の向上 インターネット等の活用を通じ、職人間の情報共有と複数建築現場の連携を実現し、建築作業の全体最適化を図る自立・分散・協調型ネットワークの構築を目指すシステムを提供
わかしお医療ネットワーク (千葉県東金市)	国、県	安心して受診できる医療の提供体制の構築 病院のICT化の推進及び地域完結型の医療システム(電子カルテネットワーク等)の構築
インターネット市民塾 (富山県)	国、県、市 任意団体	地域の社会教育環境の向上等 誰でも講師として講座を開くことができ、誰でも生徒として受講できるeラーニングの基盤提供
どこでもコミュニティ (大和市)	国、市	住民の行政参加の推進 住民と行政との意見を交換する場として、行政が電子会議室を運営
シニアSOHO普及サロン (三鷹市)	市、NPO、 任意団体	高齢者が地域活動への参加する仕組みの提供 元気な高齢者が講師となり、主に初心者を対象とした地域のICT講習会等を実施
桐生地域情報ネットワーク (群馬県桐生市)	国、市、 NPO	「未来の子供達が愛する桐生地域」の創出 ICTを活用した地域の魅力発見、地域のコミュニケーションの促進
みあこネット (京都市)	国、NPO、 民間企業	市民の手によるコビキタス環境の構築 自らの手でどこでも自由にインターネットを利用できる環境を構築するという考えに賛同する住民が、自宅やオフィスなどに無線LANの基地局を設置・運営
南房総IT推進協議会(千葉県南房総地域)	NPO	インターネット等のICT活用による地域活性化 インフラ整備、コンテンツサービス(地域ポータルサイトの構築等)、リテラシー向上活動(ICT講習会など)を実施

事例から見る地域情報化の在るべき姿

- 多様な主体がその有する資源を相互に補完し、利用者の視点に立って自律的に地域の課題解決
- 各取組みは、「地域づくりの道具」としてパッケージ化され他地域に横展開
- 先進的な取組みには、下記のような仕組みがあることが判明

仕掛け

「ロジスティックス・タイプ」・・・既存の集権的・縦割りの仕組みをロジスティックスの観点から再構築する。

「グループフォーミング・タイプ」・・・ICTのもつ「人を集める」機能を活用して、自発的な知識生産を促す。

「マルチプロジェクト・タイプ」・・・地域アイデンティティの下で、地域特性のある複数のプロジェクトを行う。

「基盤整備タイプ」・・・インフラ等、地域がICTを利活用する前提条件を整備するプロジェクトを行う。

有効な機能の
ために必要

イ・ト・コ

「インセンティブ」・・・「地域を変えたい」という気持ち 「やりがい」「金銭」など

「トラスト」・・・信頼性を獲得するプロセス 「情報提供」「適正な合意形成」など

「コネクター」・・・地域の内外の連携を司る機能 「プロデューサー」など

P D C A

活動にビルトインされることで、絶えざる自己変革を行う。

役割分担

様々な主体が相互に資源を融通し、単独では不可能な多彩な取組み。

広域化

行政圏の枠を超え、住民の生活圏に密着した範囲での取組み。

最終報告に向けた課題

- 主体間の適切な役割分担
- 事例を通じて明らかになった課題の解決方策の検討

➤ 解決方策として、各地域において自律的解決に委ねる、又は、何らかの公的支援を通じて課題解決を図る、の2通りが考えられ、今後の検討において具体化することとする。

運営に要するランニングコストの不足

地域情報化を支える人材の不足

情報通信インフラの整備の遅れ

連携・横展開のハードル

その他（標準化など）

自律的に課題解決

- ・コミュニティビジネス等により収益を確保
- ・人材紹介・斡旋の仕組みの構築
- ・インフラ構築事例の横展開

など

公的支援を通じて課題解決

- ・地方公共団体からの事業の受注
- ・地域公共ネットワークの民間開放
- ・先導的モデル事業への支援

など

- 先進事例の横展開を図るための手法の検討
- 地域情報化の評価手法の検討

→ **新たな地域情報化の全体像を明らかにする**